

学校法人秋田聖心の布教姉妹会  
聖園学園短期大学  
機関別評価結果

平成23年3月24日  
財団法人短期大学基準協会

## 聖園学園短期大学の概要

設置者	学校法人 秋田聖心の布教姉妹会
理事長名	石橋 弘子
学長名	青木 光子
ALO	腰山 豊
開設年月日	昭和41年4月1日
所在地	秋田県秋田市保戸野すわ町1-58

### 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
保育科		100
	合計	100

### 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

### 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

聖園学園短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 21 年 7 月 21 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、昭和 15 年聖園保母学園を設置したことに始まり、昭和 41 年に短期大学としての認可を受け、発足した。

当該短期大学の建学の精神・教育理念はキリスト教の精神に基づいて明確に規定され、学内外へ周知されている。特に学生には、キリスト教的人間性教育と合わせて、週 1 回の「聖園アワー」における理事長と学長の講話において、また「キリスト教人間学」の授業でも周知に努めている。この建学の精神・教育理念に基づいて、教育目標も具体的に定めている。

教育課程は教育の理念等もよく反映され、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格取得ができる体系的な編成になっている。しかし、基礎教養科目の充実、資格取得にかかわる選択必修科目の増設、またクラス規模の点で改善が必要な部分もある。教育課程・授業方法の改善については、学生による授業評価を定期的に行っている。

教員組織はおおむね適切である。図書館は蔵書数が 6 万冊余りであり、特に保育系領域の児童文化書物は多彩で充実している。

単位の取得状況は極めて良好である。留年・休退学はほとんどない。教育活動は効果的とみられ、資格取得率、専門就職率は非常に高く、卒業後評価についても積極的に活動している。

入学志願者、学生に対する諸支援等はおおむね適切である。進路支援体制は適切で就職内定率も高い。教職員一丸となった献身的な学生支援は綿密に行われている。

教員の研究活動は、活性化の条件も大体において整備され、おおむね積極的に行われている。しかし、著書や研究論文のない教員もいる。論文の質的水準の向上には、研究紀要委員による査読サービスコメント制度を設けるなどして対応している。

キリスト教に基づく人間性育成の観点から、奉仕の精神を養うべく積極的に社会的活動を奨励し、学生は貴重な体験をしている。公開講座開催や「大学コンソーシアムあきた」による高大連携授業への講師派遣など地域交流や連携も行われている。

理事会・評議員会の活動、理事長と学長の学園運営は適切である。スタッフ・ディ

ベロップメント（SD）活動は積極的に行っており、その他の事務上の管理・運営等は適切で、事務職員の学生からの信頼も厚い。

財務運営はおおむね適切であり、また、財務体質は健全である。

平成10年度に自己点検・評価の規程を作成し、全教員参加の定期的点検・評価、報告書の刊行、規程見直し等を行い、改善に活用されている。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### （1）特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 毎週1回の「聖園アワー」等を設けて理事長と学長が講話を行い、建学の精神・教育理念の周知と共に、キリスト教の立場から人間性の教育を行っている。この人間性の教育は、幼稚園教諭・保育士養成の観点からも当該短期大学の特色となっている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- 当該短期大学では、「キリスト教人間学」を設けると共に、授業内容と関連させた授業外の活動として、「聖園祭」での子ども対象の催しもの参加、「音楽発表会」参加、週一回教員と共に行う清掃活動などで、人間性の教育を行っている。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 学生会の下部組織として学生図書委員会を設け、図書選定活動、図書を通じた学習活動の促進、推薦図書の紹介など、学生の自主的活動を推進している。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 秋田県内の保育所、児童施設、幼稚園を対象にアンケート調査した。施設・園側にも保育者として必要な能力を調査した。また就職5年未満の卒業生からはさらに

身につけたい能力を調査し、これらを当該短期大学の教育全般に生かしている。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

- 教務関係者が連絡を密にしながら学生からの相談に応じ、多角的な観点から適切な指導により、高水準の就職内定率を達成している。

### (2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育効果のより一層の向上を図るために、基礎教養科目や資格取得科目の一層の充実、演習科目の一部の受講者数の見直しが望まれる。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 現在改修中で運動場が設けられていないが、教育に支障のないよう、改築後速やかに整備する必要がある。

### (3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「キリスト教に基づき、真理を求め、自分と他の人を大切にして、子どもたちを真の幸せに導く保育者を養成する」が建学の精神・教育理念であり、当該短期大学の母体である「聖心の布教姉妹会」の理想から発している。この理念は設立の経緯に調和し、以来これを守り続けている。学則にも記載され、学外にはウェブサイトや「大学要覧」等で明示されており、学生及び教職員に対して様々な機会に周知・理解が図られている。

建学の精神・教育理念に基づき、具体的に 5 項目から成る教育目標が定められており、両者の関係は密接であり整合性がある。これらについてウェブサイトや「大学要覧」等に記載されている。毎週 1 回の「聖園アワー」等を設けて理事長と学長が講話を行い、建学の精神・教育理念の周知と共に、キリスト教の立場から人間性の教育を行っている。この人間性の教育は、幼稚園教諭・保育士養成の観点からも当該短期大学の特色となっている。口頭での周知・理解は建学の精神・教育理念と同時に行われている。

この 5 項目の教育目標の点検は過去 3 年間全教職員参加の研修会で、建学の精神等についてと共に総合的に行われ、今後も継続の予定である。この見直し等、目標の実現方策の検討は拡大教授会（助教以上が構成員、自己点検・評価委員会と同じメンバー）で具体策を検討している。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

当該短期大学では、「キリスト教人間学」を設けると共に、授業内容と関連させた授

業外の活動として、「聖園祭」での子ども対象の催しもの参加、「音楽発表会」参加、週一回教員と共に行う清掃活動などで、人間性の教育を行っている。

教育課程は、建学の精神・教育の理念、教育目標、そして学科の特徴が反映され、資格取得の課程を含む体系的な編成になっており、専任教員の配置も適切である。教育内容は短期大学の水準を満たし、評価方法も適切で、これらは形式がよく整い、理解しやすいシラバスとなって学生に示されている。しかし、基礎教養科目の一層の充実、資格取得にかかわる選択必修科目の幅を広げることなど、改善の余地はある。また、授業形態のバランスはとれているが、演習科目に50人を超えるクラス規模のものがあり改善が必要である。

学生による授業評価は定期的に行われ改善に利用されている。ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動等への取り組みは、委員会を設置して活発に行い意欲的で、SD活動も内外の研修会へ職員が参加するなど積極的に行っている。

全体として教育課程・授業方法の改善への意欲は十分であり、また組織的な対応もされている。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員数は短期大学設置基準を満たしている。教員はおおむね相応な業績を有しているが、専門分野によっては学術論文のない教員もいるので、論文作成に向けて後押しが必要である。また、教員の採用、昇任の基準をより一層、明確にする必要もある。

校舎・校地は同設置基準を十分満たしている。

校舎の一部が現在改修中である。改築後は近代的な建物となり、既に完成している多目的ホールが素晴らしく、ピアノレッスン室、調理実習室、保育実習室等、施設は充実している。現在改修中で運動場が設けられていないが、教育に支障のないよう、改築後速やかに整備する必要がある。

図書館は蔵書数が6万冊余りであり充足している。特に、保育系領域の児童文化書物は多彩である。図書購入費予算、廃棄システムについても問題はない。図書選定システムに問題はない。

学生会の下部組織として学生図書委員会を設け、図書選定活動、図書を通しての学習活動の促進、推薦図書の紹介など、学生の自主的活動を推進している。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位の認定状況は、再試及び再試に対しての指導も行われ、結果としておおむね合格ラインに達している。また留年、休・退学はほとんどなく、教育目標達成のための教育効果はあがっているとみられる。

「学生による授業評価」の各項目の結果を利用して学生の満足度を把握し、指導に生かしている。

幼稚園教諭・保育士資格の取得率は高く、専門就職の割合も高い。卒業後評価についても積極的に活動し、就職先へのアンケート等を実施しそのニーズにこたえる取り

組みも行った。また、卒業生の集い、一時中断していた同窓会も再開実施して意見を聴取している。

#### 評価領域V 学生支援

教育理念、各種入試の要項は明示されているが、求められる学生像・選抜方針についてはより明確に示す必要があるだろう。その他の入学に関する支援はおおむね適切に行われている。また、入学後のオリエンテーション、様々な能力の学生にも配慮するなど学習支援も組織的に行われている。学生便覧の科目表は工夫が必要である。

教員と事務職員が連携した学生生活支援の組織は整備され、クラブ活動等の放課後活動の支援体制の整備は必要であるが、学生によるその他の活動は活発で支援体制も整っている。キャンパス・アメニティへの配慮はおおむね十分である。奨学金制度、身体的健康の管理体制も整備され、不定期だが学生生活に関するアンケートも実施されている。

就職支援体制は適切であり、就職内定率も高い。特別な支援を必要とする多様な学生はこれまでほとんど在籍していなかったため、支援体制の整備はなく、その都度の対応となっている。

#### 評価領域VI 研究

教員の研究活動はおおむね積極的に行われていると判断される。ただし、著作や研究論文の発表がない教員は執筆の努力が、学内研究紀要が中心の教員は全国規模の学会等への研究論文の投稿・掲載の努力が期待される。また、国際会議出席等の活動、及び科学研究費補助金等の外部資金の獲得に対する一層の努力も望まれる。

研究活動の活性化のための条件もおおむね整備されているが、その実施にあたって円滑にできる体制作りが望まれる。

#### 評価領域VII 社会的活動

「ボランティア活動」という科目を開講するなど、様々な教育活動を通して学生に社会的活動の重要性を認識させようという当該短期大学の強い意欲が感じられる。そして学生は附属幼稚園などでボランティア活動を行ったり、学園祭などで地域の子供たちと交流したりすることにより、学科の専門に関する保育の現地活動やキリスト教精神に基づく奉仕活動をするなど、貴重な体験をしている。

当該短期大学では従来、社会人入試制度はなかったが、平成21年度からその制度が整備され実施されている。公開講座の開催や「大学コンソーシアムあきた」による高大連携授業への講師派遣なども定期的に行い、地域社会との交流や連携に関しても積極的な活動が展開されている。

国際交流・協力への取り組みについては、留学生の受け入れ・派遣、海外教育機関などとの交流、教職員の留学・海外派遣・国際会議出席等のいずれの点においても、



かなり低調である。しかし、地方の小規模校ということを考慮すれば、これはある程度やむを得ないことではあろう。また、実現はしなかったものの、実際に海外教育機関との交流（タイの国立ナレスワン大学との交流）に向けた努力がされている。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

理事会・評議員会は寄附行為に基づいて適正に活動しており、監事は業務監査を適正に行っている。理事長は常勤しており、学長と十分な協力関係のもとに適切に学園運営を行っており、月 2 回の「定例職員会議」で学校運営について広く協議しこれを効果的に機能させている。

事務組織は、平成 22 年度から小規模校に適した組織とするため、簡素化と事務能率の向上を目的として改変された。また、平成 19 年度からは夏季休暇期間に全教職員参加による研修会を実施し、SD 活動も含めて当面する課題に対して全力で取り組んでいる。

事務室が本年度新築され、事務機器・備品等も整備されつつあり職場環境は良好である。その他、事務職員の任用、事務諸規程等に基づく業務、決裁、公印等の管理、防災対策、情報システムセキュリティー対策は適切である。事務職員の学生からの信頼も厚い。

#### 評価領域Ⅸ 財務

事業計画と予算は、事務局が中心となり各部署・教員からの意見を反映して、学長との協議の上で案を作成している。これを理事長に提出し、評議員会の協議を経て理事会で適切に決定している。経営は計画的に自己資金を積み立て、今回の二期にわたる新築工事も順調に進めている。年間予算の執行、決算終了後の計算書類、財産目録等は適正であり、監事の機能も有効に働いている。資産及び資金の管理も適切で、財務情報も公開している。

施設設備、物品の管理は諸規程（経理規程、資産運用規程、図書館運営規程等）に従って適切に行われ、危機管理も十分である。省エネルギー・省資源対策については、新築校舎において配慮されている。

財務体質については十分な余裕資金があり、短期大学部門、学校法人全体ともに消費支出比率が 100 パーセント未満で、収入超過であり、健全である。

財務体質が健全であるので、その資源を用いて教育研究経費の適正な執行が望まれる。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

平成 10 年度から自己点検・評価の規程及び組織を整備して定期的に自己点検・評価を行っており、3 年ごとに報告書を刊行し関連の短期大学、四年制大学等に送付している。平成 18 年度からはこれを第三者評価に向けての組織と位置付け、「自己点検・評

価に関する規程」を見直すとともに、全学的に活動を進めているなど、第三者評価に向けての決意は強固で、意欲は高い。

学生の教育の改善を中心に自己点検・評価の全領域において、委員を中心にすべての教員が関与して活動する組織が構築され、その活動結果は改善に反映されている。